

誰と生きるか、
何を愛するか、
それが人生――

ふるさと がえり

Going Home 

渋江譲二 佐藤仁美

矢柴俊博 前田 健 小林且弥 熊崎雄大(新人) 佐藤 初 山田太一 窪田かね子・笑福亭鶴光 斎藤洋介 中丸新将 沼田 爆 小林かおり 河原崎 建三
村田雄浩 高畑淳子

監督：林 弘樹 脚本：栗山宗大 企画：えな「心の合併」プロジェクト/ものがたり法人FireWorks プロデューサー：三浦 修 撮影監督：藤田秀紀

照明：江川 斉 録音：廣木邦人 美術：岩城南海子 衣装：村島恵子 ヘアメイク：宇都圭史 スチール：長谷良樹 CGI：坂井隆志 編集：宮崎 恵 音楽：宮本貴奈/菊地 謙太郎 題字：尾崎栄岬

協力：恵那市/岐阜県/恵那ふるさと映画支援の会 後援： 消防庁/財団法人日本消防協会/日本商工会議所青年部 制作：ものがたり法人FireWorks 配給：NAKED INC.

©2011 /  FireWorks / NAKED INC. / 恵那ふるさと映画制作実行委員会

あなたにとって、「ふるさと」とはなんですか？

ふと田舎を思えば、過疎化、コミュニティの崩壊、地元経済の衰退…。
誰かが、そんな寂しいお話をしている。
「何十年か先には、このまちの人口は半分になる…」
あらゆる統計データは、「現実」から未来を予測するしかない。
もの悲しい話題が、僕らのふるさとに溢れてしまっている。
「あの頃は良かった…。このままでは…」

過去のデータのみから計算された陳腐な「物語」に気を囚われて、
私たちの「ふるさと」は、未来を語る力を失っている。

「豊かな未来」を物語る勇気を失うことは、
様々な「現実」への、敗北宣言に他ならない。

未来を物語る勇気を、届けたい。日本中の「ふるさと」に向けて。

「私たちは、物語を生きている」

それが、映画「ふるさとがえり」のメッセージだ。

この映画を通じて、明日への一歩を切り拓く力を届けて行きたい。
そしてまた、大切な「ふるさと」に想いを馳せる、きっかけとしたい。

「ふるさとの未来」は、私たち一人ひとりが創造するもの。
「いま・ここ」で、語り合い、物語ることから、全ては始まるのだ。

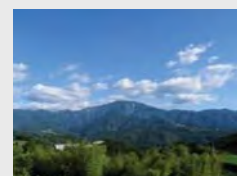


企画背景

Concept

◆全ては合併から始まった

平成16年10月、岐阜県恵那市と岩村町、山岡町、明智町、串原村、上矢作町が合併して
新恵那市が誕生。昭和の合併と合わせると13のまちがひとつになった訳だ。
しかし、形の上では一つになっても地域や心の交流はなかなか進まない。そこで市民グループを中心に、
人々の融和を目指した「映画制作によるまちづくりプロジェクト」が始まったのが、今から約5年前のこと。



◆ゼロからのスタート

それは、合併して2年が過ぎようとしていた頃のこと…。
行政や地域経済の担い手を中心となり、様々なまちづくり活動が始められていく中、
「これでいいのだろうか？本当に地域の意識はひとつになるのだろうか」と疑問を抱く行政マンがいた。
何とかして、地域や世代を超えて、人がつながることは出来ないのかと思案していた頃、
中部経済産業局主催のシンポジウムで出会ったのが「映画を使ったまちづくり」の手法だった。



◆恵那市民56000人全員参加の映画づくりを目指す！

映画の企画段階から、様々なプロセスをイベント化、参加型スタイルで多くの人を巻き込んでいく。
始めは数名から始まったこのプロジェクトだが、今までの間に、映画塾の開催、脚本づくり、映画祭
チャリティコンサート、予告編の撮影などプロセスを経て、既に参加してもらった市民は数千人にのぼる。
今年の夏に予定している本編のロケ、上映展開までの間に、
何らかのカタチで、市民全員がこのプロジェクトの想いに触れてもらうことを目指している。



プロジェクト・プロデューサー紹介

地域づくり総務大臣表彰2010受賞 FireWorks



■ 脚本家 栗山宗大
Munehiro KURIYAMA

1978年、東京都・北区出身。
「ニッポン中のまちを映画で元気にしよう！」と、
映画監督・林弘樹ら無鉄砲な仲間たちとともに、
2003年、地域密着型・市民参加映画を企画・実施する
映画製作会社FireWorksを起業。
「映画×まち」な人生がはじまる。
全国各地の映画づくりで「10万人以上の人間」を巻き込む。
愛媛県西条市の合併記念映画「恋まち物語」の脚本担当。
東京都東大和で制作した「人生ごっこ!?(2006年)は
「ミンスク国際映画祭映画記者審査員特別賞」の受賞や
「kinotayo国際映画祭」パノラマ部門への出品や「上海国際映画祭」
に招待されるなど数多くの映画祭へ羽ばたいており、
「脚本家」「映像プロジェクト・プランナー」として、
全国津々浦々、「まちの笑顔」の創造を志している



■ 映画監督 林 弘樹
日本映画監督協会会員
Hiroki HAYASHI

1974年さいたま市生まれ、獨協大学外国学部英語学科卒。
卒業後、TVや映画の助監督として黒沢清監督、和田誠監督、
北野武監督等々の元、現場で働く。
28歳、映画「らくだ銀座」にて監督デビュー。
西条市合併記念映画「恋まち物語」や全国各地での地域密着
型映画製作で、今まで数十万人の人を巻き込み、
日経地域情報化大賞2005「日経MJ賞」を受賞。
全国の企業・地方自治体・商店街、最近では図書館等のブラン
ディング戦略事業のプロデュースにも関わる。
また各方面からの依頼に応じた講演会活動や
映画ワークショップ等も行っている。
最新作は「人生ごっこ!？」と「優しい眠りの物語2010」。
経済産業省キーパーソン研究会委員。

映画「ふるさとがえり」の物語

■物語に託す想い

映画『ふるさとがえり』の物語は、制作スタッフと恵那市の人々との長期間に渡る対話から生まれた。

劇中に登場するエピソードや人物も、現地での取材から着想を得たものが多い。

ストーリーは消防団とまちの人々のドラマから、地域における“つながり”を描き、
ひとつ屋根の下、大家族の様な“ふるさとの姿”を描く。

しかし、「田舎・ふるさとの魅力再発見」の様な、ありきたりなテーマには媚を売らない。

“ふるさと”は、いつでも美しいものだ。

ふるさとの人々、それを優しく包み込む自然は、最も愛しい存在だ。

しかしその反面「田舎」が抱える矛盾や葛藤こそを、浮き彫りにしなければならない。

■映画「ふるさとがえり」の作品概要

1990年、ある夏の日に、亀を助けた四人の少年。

2010年、映画の助監督を辞め、帰郷することになった主人公・勘治。

ふるさとを舞台に、二つの時代・物語が交差しながら進行していく。

消防団活動に巻き込まれる勘治は、少年時代の仲間たちが「地域の平和」のために生きている姿を目の当たりにする。

一方少年カンジは、仲間たちと「ふるさとの平和を守る亀の子団」を結成。ただただ遊び呆ける日々の中、

夢中で描いた「竜宮伝説」という冒険物語のスケッチブックや、お寺の映画上映会の体験などで、「映画監督」になる夢を抱く。

志半ばとなった「少年時代の夢」。今まで振り返りもしなかった「田舎の現実」。

20年の時を超えて、一人の男性の「ふるさと」への愛情と葛藤が交錯していくのだった…。

いつでも「人は生まれ変わる」。そしていつでも、私たちは「新世界」を創造する可能性を秘めている。

カンジが描いた「ふるさとの物語」を通じて、その想いを届けていく。



映画「ふるさとがえり」 出演キャスト



渋江 譲二



佐藤 仁美



高畑 淳子



村田 雄浩



笑福亭 鶴光



斎藤 洋介



小林 かおり



前田 健



河原崎 建三



矢柴 俊博



山田 太一



窪田 かね子



是永 克也

映画「ふるさとがえり」製作運営組織

Organization

— 製作 —

恵那ふるさと映画制作実行委員会

NAKED.inc

映画製作会社 FireWorks

— 協力・後援 —

岐阜県

恵那市

日本商工会議所 青年部

消防庁

日本消防協会